

架け橋



発行 上都賀教育事務所ふれあい学習課
鹿沼市今宮町 1664-1
TEL:0289(62)7167 FAX(62)0148
Email:kamitsuga-kyouiku@pref.tochigi.lg.jp

新型コロナウイルスの影響で、令和3年度も通常の教育活動が実施できない中ですが、社会教育・生涯学習においても研修会をはじめ各種活動の中止や自粛に負けないよう少しずつ前に進んでおります。一日も早い収束と地域の教育力を生かした教育活動が再開できるよう願うばかりです。

さて、本年度の「架け橋」は、上都賀地区現職教員社会教育主事会長様の御挨拶と本年度実施された社会教育主事講習受講者の御紹介を掲載いたします。どうぞ御覧ください。

<上都賀地区現職教員社会教育主事会長挨拶>

社会教育主事有資格者の気概と自負をもって

現在、学校の抱える課題は、複雑化・多様化し、学校だけではなく、社会全体で子どもたちの育ちを支えていくことが求められています。また、変化の激しいこれからの時代予測から、文部科学省は、「社会に開かれた教育課程の実現」が重要となると提言しています。

このように、私たち教育関係者には、子どもたちの健やかな成長を地域と共に支えられるよう、確かな役割として、社会教育がめざすような「人づくり」「地域づくり」「仲間づくり」をすることも期待されています。つまり、学校と地域の人々が課題を共有し、共通の目標・ビジョンをもち、一体となって地域の子どもたちを育てていくことで、子どもの豊かな育ちを確保でき、地域の絆を強め、持続可能な地域づくりにもつながると言えるのです。学校と社会が、それぞれのもつ役割を十分機能させ、未来の創り手となる子どもたちの成長を支えていきたいと考えます。

我が今市小学校は、「地域とともに歩む信頼される誇り高い学校の創造」を経営方針に掲げ、今年度の努力課題としては「自ら問いをもち、学び合いを通して主体的に解決しようとする児童の育成」を目指して教育活動を進めております。さらに「児童ファーストを実践する学び続ける教師」であることも努力点にあげ、教師の人財育成も考えて後進の育成をしているところです。

さて、我々は地域コミュニティの核となる学校に勤務しつつ、学校と地域の橋渡しをしていく役割の現職教員社会教育主事有資格者です。どうか気概と自負をもって、仕事や御自分の活動にあたってほしいものです。今年度は、コロナ禍にも負けず社会教育主事講習が行われ、オンライン研修ではありますが、無事に私たちの仲間が増えたと聞いておりま

す。新しい修了生の皆さんもどうか健康に留意され、御活躍くださるようお祈りいたします。

下の写真は、6月11日（金）に中央公民館にて実施した第1回現職教員社会教育主事会研修会後に行った総会終了後に撮影したものです。お陰様で、無事に総会を終了しましたので御報告いたします。

なお、研修会は、上都賀教育事務所ふれあい学習課の尽力で無事に実施できました。講師は、宇都宮市の光琳寺住職・井上広法様で、コロナ禍の今、学校、家庭、地域との協働についての講話、お寺からライブ中継をしていただきました。井上様は、禍に臆せず、立ち止まった機会を大切にしつつも、次には、前に進むことの大切さを説いておられました。そのお話からも、今年度、本校がモデル校をお引き受けしている「頑張る学校・地域！応援プロジェクト」の活動を通して、地域の皆様と連携・協働し、日光市の学校運営協議会制度の導入に向けた体制づくりの基盤となるよう計画をすすめていくことの重要性を確認できました。

結びとなりますが、上都賀教育事務所をはじめ、鹿沼市・日光市教育委員会、教育関係機関の皆様の御理解と御協力に感謝し、今後も相変わらぬ本会への御指導をお願いして私の御挨拶といたします。

日光市立今市小学校長 石川 僚一



●ふれあい学習課より研修会の御案内●

今年度の人権教育指導者一般研修「人権ふれあいフェスタ」は、人権月間に合わせて、オンデマンド配信（12月1日～15日）します。内容はアイヌの方々の人権についてです。興味のある方は、右QRコードよりお申し込みください。【申込み～11月15日（月）】



< 令和3年度社会教育主事講習受講感想の紹介 >

今年度の講習は、茨城大学にて行われました。新型コロナウイルス感染症の影響で、すべてオンラインで行われました。下記は、ステップアップのための事後研修資料に投稿いただいた上都賀地区義務教育関係受講者（4名）の感想紹介です。様々な思いを御覧いただき、社会教育主事講習の様子を想像してみてください。編集の関係上、全文ではありません。御了承ください。

（下線は事務局が加筆）



1 講習をとおして学んだこと、感じたこと、印象に残った言葉

・社会教育は「見える人にしか見えない教育」であるという話が一番印象に残った。「社会教育」「地域連携」と聞くと敷居が高かったり、難しく考えなければならぬと感じたりするイメージだったが、例えばコミュニティスクールについても「現在あるもの、実施していることに名前をつけるだけ」という認識でよいという講義にはかなり安心した。現在、学校で行っている地域の方と共に活動していることや協力していただいていることは何だろうとじっくり考えるきっかけになった。
(鹿沼市立東中学校 石川裕子教諭)

・コロナ禍のため、対面での講義が一度もなく、すべてオンラインでの実施となった講習でしたが、学校、家庭と地域の連携の重要性についての理解を深めることができました。また、今回の講習の中で印象に残ったのは「社会教育の大きな役割は地域づくりである」という言葉でした。そのために、地域や人とのつながりを大切にすることを、更に強く意識して、学んだことを生かしていきたいと思いました。
(鹿沼市立南摩中学校 佐藤俊介主任)

2 講習で学んだ知識や技術等を生かしてちょっぴり取り組んだこと



・社会教育主事講習で、自分の住んでいる地域について調べたことを、総合的な学習の時間に生徒たちに話をした。

・これまであまり目を通したことがなかった市の広報誌をじっくりと目を通すようになった。そうしたら、知人が載っており、連絡をとってみたら、話のネタになった。

・市立図書館を利用する機会が増えた。

・地域の育成会行事である「わらでっぼう」に参加を希望した。（コロナのためなくなってしまったが）
(日光市立今市中学校 柏木孝広教諭)

- ・学習発表会時に、職員と保護者、地域の方による特別講演「UMA伝説R3」を行いました。これは、子どもたちに、大人が真面目にはしゃぐ姿を見せることで、自らの将来を前向きに考えることが出来るための「心のエネルギー」を蓄積させる目的です。その際に、UMA役をして場を盛り上げました。
- ・自ら進んで学習会に応募したり、新聞や市の広報誌などを意識的に読むようになったりと、人とのつながりや地域のこと意識が向くようになりました。
(鹿沼市立上南摩小学校 原田拓弥主事)



< 「社会教育士」で検索！ >

令和2年度社会教育主事講習から、講習修了後には、今までの社会教育主事有資格者というだけでなく、「社会教育士（講習）」を名乗れることになりました。現有資格者の方は、通信教育等で不足単位を取得していただければ、「社会教育士」を名乗れるようになります。

詳細は、文部科学省HPを御覧ください。「社会教育士」で検索！

●文部科学省HPより●

地域を面白くしたい、新たな人ともっと出会いたい、多様な人ともっとつながりながら活動したい、という前向きな気持ちになれるきっかけが、地域にたくさん存在していなければ、大人も子どもも、そして地域も成長していくことはできません。

このきっかけにあたる取組を、人々の自由で自発的な学習活動を支援する社会教育という分野では、「学び」と呼んでいます。こうした「学び」を社会のいたるところにたくさん仕掛け、豊かな地域づくりへの展開を支援する専門人材が、社会教育士です。

https://www.mext.go.jp/a_menu/01_1/08052911/mext_00667.html



社会教育士

